2023 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会･主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。
開催日時：2022 年 8 月 4 日（木）

＜ご留意事項＞
「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたものではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。
また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

映像事業

Q： 営業利益の今期見通しについて、社内計画に対し第 1 四半期実績で上振れた約 50 億円を上方修正したという説明であったが、上振れの要因を教えて欲しい。
A： 上振れの約半分は拡販費用の縮小による単価の上昇と製品ミックス改善によるもので、その他は 1/4 が円安効果、1/4 が経費抑制によるものです。

Q： 第 2 四半期以降、業績見通しを据え置いた理由は？
A： グローバル経済の不透明感もあり据え置きました。第 2 四半期以降の為替レートは 5 月公表時の想定レートを据え置き、1 ドル＝120 円、1 ユーロ＝130 円としていますが、足元の円安水準が継続すると、第 2 四半期の業績は上振れする可能性があります。一方、下期は、競合商品との関係などから販促費の増加も想定され、研究開発費や新製品の関連費用が発生する計画もあることから、業績見通しは従来予想を据え置きました。

精機事業

Q： FPD 露光装置の来期以降の見通しは？
A： FPD 露光装置については、今期 31 台の販売を予定しています。
来期の見通しについては、現時点で明確にお伝えするのは困難ですが、足元パネル価格の下落や顧客の投資に対する慎重姿勢などから、販売台数は今期を大きく下回る可能性があります。
精機事業は、異なる需給サイクルを持つ FPD 露光装置と半導体露光装置、さらに着実な収益が見込めるサービスビジネスの 3 つで運営することで、全体の収益の安定性を確保していく方針です。2024 年 3 月期は、半導体露光装置が好調で FPD 露光装置が減速するとみています。

Q： 半導体市況の変化により主要顧客の業績が低迷しているが、半導体装置事業では、来期以降、影響を受けそうか。

A： 半導体市場の需要環境は従来に比べ不透明感が増していると感じています。一方で、特定のお客様の状況についてお答えするのは難しいですが、今期のみならず、来期以降も主要顧客とのビジネスには大きな影響はないと考えています。注文キャンセルは発生しておらず、当社の半導体露光装置ビジネスは引き続き堅調に推移すると考えています。ただし、2024 年以降、主要顧客の追加投資を期待していた部分に関しては動向を注視してまいります。

Q： 中国向けの半導体製造装置への規制強化に関する一部報道があるが、ニコンの現状や今後の影響の可能性は？

A： 現時点で、当社による中国向け半導体露光装置の輸出について、一部報道にあるような制限を課すような話は日米いずれの当局からも受けておらず、中期経営計画を変更しなければならないような状況にはありません。
しかし、地政学リスクは、当社のビジネスにとって常に考慮すべきテーマであり、従来どおり、関係当局と緊密に相談しながら適切に対応してまいります。

Q： 一部の FPD・半導体露光装置の販売が上期から下期へシフトしているが、下期から来期にシフトする懸念はないのか？

A： 今のところ、今期中に装置の据付を完了する予定で対応しています。コロナ感染の再拡大や物流遅延の影響によってはさらに遅延するリスクはあります。

コンポーネント事業

Q： コンポーネント事業の来期以降の見通しについて教えて欲しい。

A： EUV 関連コンポーネントは、来期以降も顧客の需要増加に対応するとともに、顧客の要望に応じた高 NA（開口数）化の開発にも対応しており、ビジネスは今後も伸びていく見込みです。EUV 関連コンポーネント以外の光学部品、光学コンポーネントも複数の顧客から複数年にわたる引き合いがあり、今後の成長を期待しています。

以上